

## あなたへ

岐阜市立長良中学校 3年

加藤 里彩(かとう りさ)

あなたが思い描く「平和」とは何ですか。世界各地で戦争が起こらない事でしょうか。核兵器のない世界になることでしょうか。そもそも、今の私たちは平和なのでしょうか。

今年の5月、修学旅行で広島に行き、被爆者の方のお話を聞いたとき、私は平和について考えずにはいられませんでした。

私がお話を聞いた方は、爆心地から4.2km の自宅で被爆されました。爆風で飛散したガラス片が額に刺さり、今でも傷跡が残っていらっしゃるそうです。その方が、私たちに被爆体験を語り継いでいるのは、ある言語を聞き、「黙っていてはいけない」と痛感したからなんだそうです。その言葉とは、「平和は向こうから歩いてこない。平和の実現に向け、命ある限り語り継ぐ」という言葉です。

私は、その言葉と姿に、被爆の体験を思い出すだけでも辛いはずなのに、語り継いでいらっしゃるのは、なんて勇気のいる、素晴らしいことだろうと思いました。

そんな語り部の方に、あなたが思い描く平和とは何かと尋ねると、その方は、「当たり前に生活できること」とおっしゃいました。講演後、学級の仲間たちとも、平和について考え、話し合いました。その時、担任の先生は「幸せを求めるために、人と話し合うこと」とおっしゃっていましたが、ある仲間は「今ある日常が普遍的に続くこと」と言っていました。別の仲間は「戦争が世界からなくなること」とも言っていました。

私は、たくさんの人の思い描く平和について聞く中で、人それぞれ、思い描く平和は異なることに気が付きました。であるならば、私たちが平和を実現するためにすべきことは、一人一人が、自分なりの平和を思い描き、それを様々の人たちと伝え合うことではないでしょうか。実現への一歩は、身近にあると私は思います。

ではぜひ、大人も子供も関係なく、平和について考えてみましょう。そして、互いに思いを伝え合いましょう。

例えば、私の思い描く平和とは、「誰かのことを思い、家族や仲間との日常を大切にすること」です。そう考えたのは、広島での経験と、母の日の出来事がきっかけでした。

私の家では、毎年必ず、母の日や父の日、それぞれの誕生日にプレゼントを贈り、お祝いし合うという習慣があります。当然のように、今年の母の日もお祝いをしました。私にとっては特別ではない、当たり前のことでした。しかし、母の喜ぶ顔を見て、ふと思ったのです。

「あっ」、こうやって当たり前に人のことを思う瞬間って平和だな」と。

こんな風に思えたのは、きっと広島の平和記念資料館で、戦争というものが、大切な家族や、当たり前に感じる日常さえも奪う残酷なことだと知ったから、私は生きていく中で、平和について考えていきます。

語り部の方へ。私は、戦争を乗り越えた日本から平和の尊さを世界に少しでも発言し、平和の実現に向けて、語り継いでいきます。

皆さんへ。それぞれが思い描く平和について互いに思いを伝え合う、そんな日々を大切にしていきましょう。

母へ。誕生日おめでとう、そして、いつもありがとうございます。